



# 森のなかま

2015年8月号

NO. 88号 (継続233号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 久保 重明

〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

## 『第34回 横浜開港祭 2015 街頭キャンペーン』

ついに達成！！来場者数1000名越え 場所:みなとみらい臨港パーク

日時、天気:5/30(土)、晴れ・夏日、5/31(日)、晴れ・真夏日、6/2(火) 晴れ・夏日

< 普及啓発部会 森本 正信 5期 >

5/30 いよいよ開始です。時間を待ちきれずにすでに来場の皆様も (良い予感が)



横浜開港祭会場で、「水源の森林づくり街頭キャンペーン」を行いましたので報告します。

今年は、隔日開催(5/30、5/31、6/2)となり、天候に恵まれたこともあって かなりの賑いとなりました。

エノキ・クスノキの緑陰のもと、3年連続での同じ出店場所となりました。

5/30(土) 来場者数 306名 (大人148名、子ども158名)

5/31(日) " 344名 (大人164名、子ども180名)

6/2(火) " 407名 (大人145名、子ども262名)

3日間合計 " 1057名 (大人457名、子ども600名)

ここ数年間、挑戦してきた来場者数 **1000名越えが達成** 出来たこと、「ハレの日」である横浜開港記念日6月2日での緑の募金額が特筆される充実したキャンペーンとなりました。

延べ48名のインストラクターと財団の3名の皆さま、ありがとうございました。

受付開始・要領順序の説明



今年も翩翩(へんぽん)と翻る開港祭の旗

今年の盛況を物語る受付待ちの行列



水を育む森林の大切さ熱心に聴講の来場者



森は緑のダム 水源涵養実験



小さい子も疑似間伐体験 (丸太切り&台座作り)



ドングリクラフト(工芸)



(写真撮影: 伊藤恭造 氏⑦、足立功 氏④、広報: 松本⑩)

自然観察部会 平成27年度 『夏の探鳥会』

箱根ビジターセンター周辺、5月23日(土)／30日(土)、両日とも快晴

講師：高橋 恒通氏 3期、武本 弘次氏 7期

◆ 5月23日、噴火警戒レベルが2に上がった箱根山の麓、箱根ビジターセンターで探鳥会が行なわれました。この日は18名の参加者が集まり、9時20分にビジターセンターを後にして園内を歩き出しました。

はじめに講師の3期高橋氏より、「必死で生きている鳥たちの生活ぶりをちょっと覗かせてください、という謙虚な気持ちで接することが大切です」というお話があり、なるべく静かに移動しながら野鳥を探して回ります。野鳥観察には適した時間帯とは言えない時間でしたが、名人や馴れている方にとっては微かなさえずりや気配を感じとって、素早くスコープを向けてレンズに捉えることが出来るのですから、その高い技術と知識に感心させられます。

この日は、声と姿の両方を確認出来たのがホオジロやカワラヒワなど12種、鳴き声だけが聴こえたのがウグイス、キビタキなど7種、合計19種の野鳥に出会えることが出来ました。昼食を挟んで、7期の武本氏から鳥の翼と航空力学に関するお話があり、持参していただいた鳥の翼や羽根をもとにして、力学的なメカニズムと鳥の進化の過程の不思議を解説していただきました。それぞれの鳥の生態に合わせた大きさやフォルムの必然性、翼や羽根の1枚1枚の役割など、熱のこもった解説を聴き、どれひとつを取ってみてもみな理由があつての姿なのだと思いを新たにしました。

(記 長尾 聖司 13期)

(記 長尾 聖司 13期)



講師からのレクチャー

◆ 箱根ビジターセンター前でバスを降りると初夏の素晴らしい天気でした。参加者7名でのスタートです。一番目に登場したのがホオジロです。ソングポストで得意げに囀っているのが確認できてみなさん感激です。その後はアオゲラやホトギスの囀りは聞こえましたが姿が確認できなくて残念でしたが、シジュウカラの囀りがすぐ近くで聞こえて姿も見えました。シジュウカラはバードウォッチングの基本的な野鳥ですが複雑な囀りで他の野鳥と間違えやすいので注意が必要です。ネクタイを確認するのが一番確実ですね。素晴らしい天気の下でお昼を食べて講師からのレクチャーを受けました。講師からの説明の中で鳥の羽にはいくつかの種類があり年に1回生え変わる(換羽)と説明が有り目から鱗でした。また、翼の形状でその鳥の生活が判断できると説明を受け、みなさん真剣なまなざしで聞き入っていました。青空を見上げると私たちを歓迎しているように“彩雲”が現れみなさん感激しました。彩雲が現れると“よいことの前触れ”と言われているようです。午後は芦ノ湖方面です、しきりにキビタキの囀りは聞こえますが姿が確認できません、最後にきれいな姿が確認できみなさん感激です。

(記 松永 廣 11期)

(イラスト(2012):大塚 晴子⑩、写真:石川 裕一⑫、小池 哉⑬、松本 保⑭)



シジュウカラ



ホオジロ



カワラヒワ



コゲラ



キジバト



写真を撮ることを忘れた  
キビタキ (イラスト)

彩雲



5/23、5/30 両日に観察できた鳥: ホトギス、トビ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス  
メジロ、ムクドリ、キビタキ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイ、キジバト、ガビチョウ  
5/23 だけに観察できた鳥: コゲラ、アオゲラ 5/30 だけに観察できた鳥: アカゲラ、ハシボソガラス、ハクセキレイ

## 森のめぐみ シリーズ

## 第9回 植物の鍵物質・抽出成分が含まれる量は？

香りの図書館 館長 谷田貝 光克 氏

色やにおい、そして耐久性などのもととなりそれぞれの植物を特徴づけている抽出成分は植物の中にどの程度含まれているのでしょうか。

樹木の場合、スギやヒノキなどの国産材ではせいぜい3~5%程度です。木を強い雨風にも負けずしっかりと固定しているのがセルロース、ヘミセルロース、リグニンといった主要三大成分ですが、これらの合計が90%以上になるのに比べて抽出成分はたいへん少ない量なのです。

しかし、この少ない量でスギやヒノキあるいはモミなどをしっかりと区別できるようなにおいを持ち、害虫や腐れに対しても差が出てくるのですから、いかに抽出成分が微量でもその働きが強力であることがお分かりになると思います。

最近の住宅材には輸入材が多く使われていますが、海外の材ではどうでしょうか。北米からはベイスギ、ベイヒバ、ベイマツ、ベイトウヒ、ロシアからはロシアカラマツ、ドイツや北欧からはモミなどが輸入されています。これらに含まれている抽出成分の量もほとんどが数パーセントで、国産材と変わりません。このように材に含まれる抽出成分量は少量なので以前には少量成分と言われていたこともあります。

ところが東南アジア材、すなわち、インドネシア、マレーシア、タイなどに生育する樹木を調べているうちに、これらの材には10%以上、多いものでは20%近くも抽出成分を含んでいる木があることがわかってきました。もうこうなると抽出成分を少量成分などと言っているわけにはいきません。例えば良質の材としてよく知られているチークは15%も含んでいます。

必ずしもいえることではありませんが、抽出成分には害虫や木材腐朽菌に抵抗性のある成分が含まれていることが多いので抽出成分量が多いということは耐久性が高いということにもつながります。必ずしもといったことには意味があります。それは害虫や木材腐朽菌が好む糖やデンプンなどを多く含む木もあるからです。

その場合には害虫に食われやすくなり、また腐れやすくなります。

国産材のヒノキやヒバ、米材のベイヒバなどは高い耐久性を持つことで知られていますが、抽出成分量はそれほど多くありません。それは抽出成分の中にシロアリなどの害虫や木材腐朽菌に抵抗性のある成分を含んでいるからです。

スギやヒノキなどの木材を輪切りにしてその断面を見ると中の方の色が濃く、周囲が薄くなっています（写真）。



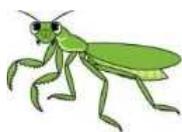
(写真提供: 谷田貝様)

色の濃い部分を心材または赤味(あかみ)、周囲の色の白い部分を辺材または白太(しらた)と言います。色が濃いのは抽出成分量が多いからです。抽出成分が多いと一般に耐久性が高くなります。木材を野外に放置しておくとき周囲の部分から腐ってくるのはこのためです。

ところで木の材以外の抽出成分の量はどうか。葉では30%以上、樹皮では数十パーセントも含まれていることはよくあります。ユーカリの葉は50%近くも含んでいます。このような葉をアルコールに漬けるとその半分が溶けだしてきてしまうのです。葉では緑の色素クロロフィルが溶けだし、樹皮の場合にはポリフェノールのタンニンが溶けだします。

活動短信

今回の掲載は5/24～6/6です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。



蚕起食桑 (5/21～5/25)  
 (かいこおきてくわをはむ)  
 第二十二候 小満 初候

螿螂生(6/5～6/10)  
 かまきりしょうず  
 第二十五候 芒種 初候



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

◆ 県民参加の森林づくり 植栽 兼

公財)かながわトラストみどり財団設立30周年記念植樹祭

- 日 5月24日(日)10:00～13:00、曇りのち晴れ
- 場 相模原市緑区鳥屋(鳥居原遊園から徒歩10分)
- 参 小学生25名 大人107名
- 県 稲垣森林再生課長他 全3名
- 相模原市 公社 志村様他 全8名
- 財 川本理事長、瀬戸専務、内海課長、豊丸様、鳥海様、古舘様、靱山様、佐々木様、南橋様 看 青木様
- イ L武者⑦、井出①、鈴木⑤、富樫⑥、阿部⑧、清水⑧、園田⑨、篠原⑨、松山⑩、後藤⑩、澤村⑫、西出⑫、稲野辺⑬、松石⑬、大原⑬、星野⑬
- 研 天野⑨、永松⑫

バスが会場に近づくにつれ、空が明るくなってきました。本厚木からバス4台、相模原方面からバス1台が鳥居原園地にて合流し、会場へ向かいます。生い茂る緑を愛で、薫風を感じながらの道中です。

記念植樹が執り行われ、いよいよ県民の皆さんで植樹を進めます。0.1haのなだらかな土地にイロハモミジ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、カツラの苗を総計800本植えていきます。

牛舎の跡地を森として再生させる活動です。「穴の深さはこれでいいかしら」「苗を軽く引きながら、土を踏んでください」と、皆さんと植樹のポイントを確認します。添木と植えた苗木を結び付け、作業が完了すると、満足そうな顔を見せてくださいました。夏の始まりに、心地よい作業となりました。

(記 星野 澄佳 13期)

◆ 横浜市立中山小学校

愛川宿泊体験学習 林業体験 事前授業

- 日 5月28日(木)9:00～10:45、晴れ
- 場 中山小学校 多目的ホール
- 参 小学5年生69名(2クラス)、教師2名 計71名
- イ L 西出⑫、村井⑨

6月3日に実施予定の林業体験(間伐)を、より意義のあるものにするために事前授業を行いました。授業の内容は、まず、「神奈川県内の森林の多くはどこにあるのか」、「横浜市民はどこかの川の水を利用しているのか」と言った身近な事柄から話を始め、「水源となっている森林の働きは何か」、「その森林がなぜ荒廃しているのか」、「大切な森林を守るために何をしなければならぬのか」等を説明して、間伐の必要性に結びつけました。子供達は、ただ山に行っても木を切るだけではなく、森林の現状や森林整備の必要性を理解して、間伐に臨んでくれると感じました。

授業は9:30～10:15でしたが、開始が少し遅れてスタートしました。教材は、県発行の冊子「水は森からやってくる」を全員に配布して、それを基本に話しながら、関連のグラフや絵をスクリーンに映して、授業を進めました。先生からお借りした名簿で指名して随所で質問を出し、児童が緊張感を持って授業に集中する様になりました。最後に、実際に間伐で使用する鋸などの道具やヘルメットなどを着用して見せ、注意事項を伝達して、授業を終了しました。

(記 西出 健一 12期)

◆ 日揮株式会社 パートナー林活動

夏の自然観察ハイキング

- 日 5月30日(土) 9:45～14:30、晴れ
- 場 寄周辺 三廻部林道
- 参 日揮社員とその家族 大人12人、子供2人
- イ L 水口⑨

観察コースは、寄バス停⇒三廻部林道入り口⇒登山道との出合⇒宇津茂茶畑⇒寄バス停で、参加メンバーには日揮さんらしく、インドからこられた8名の方も参加された。この時期ならではの満開の白花ウツギと真っ青な空、そして新緑の眩しい輝きで満ちた森の美しさを見ていただいた。

オオヤブジラミのひつつき虫なども拡大鏡で見てもら

い、その巧みな仕組みも観察してもらった。

お子さん達は鳥にも詳しく、また、いろんな虫達を見つけるのがとても得意で、子供達中心でいろんな観察ができた。クモの幼虫の集合体を揺らすと幼虫が一斉の動き出す様子には、みなさんびっくり！

インドの方も茶畑などに興味津々で途中大合唱も。日本の自然の豊かさ、素晴らしさを、楽しく堪能していただけた様でした。

(記 水口 俊則 9期)



#### ◆ 横浜市立小山台小学校 愛川体験学習 自然観察

日 5月30日(土)9:00~13:30、晴れ

場 県立愛川ふれあいの村

参 児童73名(4年生・5年生)、教師7名 計80名

イ L西出⑫、増子③、齋藤⑥、篠原⑨、村井⑨、中村⑪、赤崎⑫、菌田⑬

濃い緑の木々が青空に映える絶好の屋外活動日和の中、愛川体験学習2日目の子供達と一緒に、地図を頼りに番号の名札が付けられた木々を探して、名札に書かれたヒントを参考に、木の名前を回答用紙に書き込む「木ラリー」を実施しました。私達は、学校側のご要望もあって、五感を働かせて自然に親しみながら楽しく学習できるように心掛けました。

9時から学校やインストラクターの打合せをして、9時20分から開会式が始まり、インストラクターの紹介があった後、9時45分から「木ラリー」をスタートしました。まず、管理棟前の①の名札の掛ったシダレザクラでオリエンテーションを行った後、予め混乱を避けるために決めておいた各班のスタート地点と巡回方向に従って、木々に掛った番号を探しながら歩きました。児童達の関心を集めた木は、「生きた化石と言われるメタセコイア」、「木にもオスとメスがあると聞いて驚いたイチョウ」、「女の子が白い樹皮を気に入ったシラカバ」、「みんなが口にして甘くて美味しいと喜んだヤマグリ」、「匂いでふりかけを思い出してお腹が空いたと言ったサンショウ」等々、余裕のあるはずの2時間が瞬く間に過ぎました。閉会式で子供達の楽しい感想を聞いた後、12時から班毎に子供達と昼食を

頂いて、13時に散会しました。心配したヤマビルの被害もなく、楽しかった自然観察を無事に終了しました。

(記 西出 健一 12期)

#### ◆ 第31回神奈川県ヨダプリウス森木会

日 5月30日(土)10:00~15:00、晴れ

場 やどりき水源林

スタッフ 黒澤室長、佐藤係長、寺嶋様 他7名

参 57名(男性20名、女性26名 子供11名)

県 坂井様 看 萩原様

イ L福島⑪、宮本④、白畑⑦、愛木⑦、草野⑧、小沢⑨、宮下⑩、真貝⑪

清々しい新緑のやどりき水源林で「森林ウオーキングと水辺のいきもの観察」というテーマのもとで開催された。参加者(来客)は受付時に森林ウオーキングと水生生物観察の2グループに編成され、午前と午後入れ替わり両方のテーマを体験するという企画である。

筆者は「水生生物観察」を担当したが、参加者は夏日の日差しにもかかわらず、水温約18℃と程好い清流の中で大人も子供も熱心に採集に興じられていた。

圧巻は参加者が採集されたカジカガエルの卵からオタマジャクシが次々に孵化していくシーンに出会ったことである。居合わせた皆さんがおおいに感動されたひと時であった。採集された生きものは、ピンセット等を用いて透明ケースにピックアップし、主な生きものについて、水と採集生物の水質環境や特性などについて説明した。また、このやどりき沢の清水が横浜市や川崎市の飲料水の一部となっていることを初めて知って、感心されている方も多かった。

一方、「森林ウオーキング」はプリウス森木会で制作された冊子を利用して、Bコースを散策しながら、自然観察に五感を活用した「森林の癒し」を合わせて実施された。神奈川県内の森林の概要と問題点、やどりき水源林の説明、水源林涵養セットを使った緑のダム実験、年輪、やどりきの動植物の説明に加え、植物の香り、気功、ハンモック体験等々多彩な項目を織り交ぜながら散策した。

閉会式の前には参加者全員のクイズ大会が行われ、正解者には豪華な賞品のプレゼントがありおおいに盛り上がった。参加された皆さまは(満足の)笑顔で帰途につかれた。

(記 宮本 聡 4期)

## ◆ 川崎市「里山ボランティア育成講座」第1回

日 5月30日(土) 9:30~15:00、晴れ

場 (公財)川崎市公園緑地協会 2階会議室、  
等々力緑地

参 35名(申し込み登録者は37名)

スタッフ 野牛様他2名、人材バンク4名、講師2名

イ L 門澤⑫、山崎⑫、溝田⑬

全6回講座の第1回目。当初予定の30人定員を超え、受講生37名でスタートした。(初回2名欠席)

1. オリエンテーションに続き、公園緑地協会理事長様より安全に怪我のないようにことのご挨拶をいただいたのち、座学開始。
2. 座学①9:50~10:50:「都会のボランティアと里山暮らしの再生」講師:糸長浩司氏(日本大学生物環境工学科教授)
3. 座学②11:00~12:00:「川崎市緑の基本計画や緑化の推進事業を学ぶ」講師:山口泰民氏(川崎市建設緑政局緑政部みどりの協働推進課)
4. 実技 13:00~15:00:樹木の伐採デモンストレーションとその体験。剪定枝の処理の仕方、1本梯子の使い方、もやかき(整理伐)、下草刈り、道具の使い方、手入れ等を3班に分かれて実施。参加者の内約1/3の方がリピーターでした。  
講師:人材バンク、スタッフ等
5. 次回(第2回、6月27日)の案内をして解散。

(記 溝田 幸和 13期)

ニューズレター「しずくちゃん便り」  
ホームページは下記URLで見ることができます。



<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

## ◆ 横浜市立中山小学校 愛川宿泊体験学習

日 6月3日(水) 雨のち曇り

場 愛川ふれあいの村

参 5年生69名

財 古舘様

イ L 西出⑫、斉藤⑥、武者⑦、小沢⑨、村井⑨、  
松山⑩、永松⑫

前日の雨との天気予報を受け、長竹間伐は中止。午後からふれあいの村で「木ラリー」を行う。降っていた雨もスタート直前(13時)には上がり、子供たちは6班に分かれ

て出発。リーダーはフリーとなって全体をサポート。

まずラリーの説明をするが、気持ちはもう木探しに…。

番号を指定すると地図で確認し皆で駆け出しながら標識を探し、名前を書いていく。途中で木の説明をしたり、カツラの枯れ葉のにおいを嗅いだり、テイカカズラの花や今が盛りのヤマボウシの花も観察する。事前学習をしていたせい子供たちからも質問がいくつか出ました。

駆け出しながらネームプレートを探し、探し出せば次の木を探すので最後をまとめるのは大変でしたが、すべて探せたので達成感があったようでした。予定通り2時半に終了。ヤマビルの被害もありませんでした。

(記 永松 裕子 12期)

## ◆ 県民参加の森林づくり 緑の募金保全活動

日 6月6日(土)8:30~13:30、曇り

場 南足柄市内山21世紀の森(成長の森)

参 40名

イ L 小野⑦、井出①、鈴木⑤、有坂⑧、水口⑨、  
湯浅⑩、大塚⑩、澤村⑫、江上⑬、田中⑬、内田⑬、  
研 天野⑨

暗い雲が頭上にある、雷が鳴ったら作業は中止、お子様の成長を願って植えられているので間違っても誤伐など無い様にと伝えられてから作業スタート。

クズのツルがかなり蔓延り、まだ小さい無花粉杉の苗を覆い隠したり、一部には竹が侵入しており、悪戦苦闘しながら作業。

まだ時期的にタケニグサが小さく柔らかかったのは作業するには幸いでした。

キイチゴを堪能した方もいらした様です。

全体的に作業場所は平坦地ですが、細かく段々畑の様になっており、隣りの方との間隔を注意しながらの作業でした。

参加者の皆様の頑張りにより、予定よりも多くの作業が出来、ますますの成長を願いつつ、現場を後にした。

また、緑の募金の方も多くの方が協力してくれました。

(記 内田 啓太 13期)

## ◆ パートナー林活動

JX 日鉱日石エネルギー株式会社 根岸製油所

日 6月6日(土)10時~12時 天候 曇り

場 やどりき水源林

参 佐久間副所長他社員ご家族 177名

スタッフ 鈴木様、菅井様他 10余名

県 増田様 星様

イ 間伐:L佐藤⑤、伊藤⑦、渡部⑦、阿部⑧、斉藤⑧、  
西出⑫、山崎⑫、焼尾⑬、

参加者 49名

草木染:L白畑⑦、菊地①、斉藤⑬、小川⑬、

参加者 50名

自然観察:L村井⑨、増子③、宮本④、小沢⑨、  
海野⑩、谷川⑪、古舘⑬、真部⑬

参加者 70名

### <間伐>

前日よりの雨で作業が出来るか心配されましたが、集合時刻には、天候も回復し予定通り間伐作業を開始することになりました。10:00からイベントの開始セレモニーが行われ、その後直ぐに、自然観察と、草木染、間伐のグループに分かれ、間伐グループは予定通りの一班8～9名で班分けを確認し、間伐道具配備の場所へ移動、各班の班員へ枝打ち鋸とヘルメットを配布、共用道具も分けて持ち、雨上がりなのでヤマビル対策をしっかりと、作業時間が大変タイトな為、そそくさと、現場へ向かった。途中班員の構成が分からないので、経験をきいたところ私の班は、半数が未経験者でした。後で聞きましたが経験者ばかりの班と未経験者ばかりの班があったようです。

現場に到着後軽くストレッチの後、対象木(直径15～25cmの杉、檜)は選木済で、作業を進めながら、伐倒方向の決定、ロープの掛け方、受け口・追い口の入力方等を説明して、未経験者を中心に鋸を挽いてもらいました、各班1～2本の間伐を実施しました。企業のボランティア活動に参加する方たちなので、真面目に話を聞いて作業をして頂き、予定時間11:50までに何の苦勞もなく、また参加者も楽しんで作業を実施できました。

(記 山崎 博 12期)

### <草木染>

緑が濃くなった草木から今回は、ハートの葉がかわいいカツラ(葉、茎)、鹿の大好きコアカソ(葉、茎)、白い花が満開のヤマボウシ(葉)、花が終わったフサザクラ(葉)、でハンカチを染色してみました。染液を出すため草木を煮だしている間に模様つけです。ビーズ、板、ゴムで模様を付けます。ムラにならないよう濡らしてから染液に入

れ、沸点まで温度を上げてから約20分に煮沸しました。ハンカチを水洗いし媒染です。鉄、チタン、銅で同じ草木から違う色になりました。最後に板、ゴムをはずしてオリジナルハンカチの完成です。工程が多いので分刻みでしたが、時間いっぱい楽しんでいただき、世界に一枚のハンカチをお土産に笑顔で水源林を後にされました。

(記 菊地 昭子 1期)

### <自然観察>

前日には夜間まで激しい雨が降っていて翌日の天気心配されたが、当日は雨も上がり曇り空であった。9時頃から参加者の車や大型バス4台が続々と到着し、たくさんの参加者が広場に集まった。10時から主催者側の挨拶、インストラクターの紹介の後、自然観察組70人が8班に分かれて、最初の4班が管理棟側から、後半の4班が祠側からBコースに入って行った。この時期には最後を飾るウツギ(卯の花)が至る所に咲き誇っていた。ヤブムラサキの小さな花やアカショウマ、ミヤマホウソウの花が目についたが、むしろ、ミヤマシキミ、サルトリイバラやハナイカダの青い実が印象的だった。何と言っても参加者の注目を集めたのはヤマビルであった。湿った山道ではヤマビルが参加者に遠慮なく襲い掛かり「マビルの決闘」を演じたが被害は少なかったのは幸いだった。参加者はそれぞれ満足顔で水源林を後にして次の会場に向かった。

(記 古舘 信生 13期)

#### 投稿概略フォーマットと略語の説明

ページレイアウトは気にされずベタ書きで結構です。

#### ◆ 活動団体・活動名 等

目 日付 (できれば時間と天気も)

場 場所

参 参加者

県 神奈川県 環境農政局 水・緑部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財 ((公財)かながわトラストみどり財団)、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター (○数字:期) 研:研修枠

(以下本文を概ね400字を目安として執筆ください)

リーダーは責任を持って執筆者の選択をお願いします。

\*\*活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします\*\*

やどりき水源林  
ミニガイド

7月のトピックス

見事なサルトリイバラの実



(撮影 7/12)

8月の水源林

猛暑日も何の其の、やどりきに来れば、綺麗な森や川、しかも滝郷の滝がありマイナスイオンで涼めます。お待ちしております。

「森の案内人」情報

- 実施時間: 毎週土曜・日曜・AM10時・PM1時, 1~2時間程度
- 集合: 水源林入口ゲート前
- 内容: 森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料
- \*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ: (公財)かながわトラスとみどり財団 TEL: 045-412-2255 FAX: 045-412-2300
- ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>
- E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35~40分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

森林探訪 【共催】NPO法人かながわ森林インストラクターの会

【森林探訪申込先】 往復ハガキにイベント名、参加者全員の氏名・住所・電話番号・年齢を記入し、〒245-0016 横浜市泉区和泉町6206-1 グレーシアいずみ野105号 松永 廣まで(☎050-8880-3465) かながわ森林インストラクターの会 自然観察部会

9月26日(土) 大雄山最乗寺  
[苔むす樹齢500年のスギ巨木林を訪ねて]  
8時30分~15時

会員 500円 講師 NPO法人かながわ森林インストラクターの会  
一般 1,000円 集合 伊豆箱根鉄道 大雄山線 大雄山駅



80人(先着順) 受付: 8/1~9/19 【コース】 大雄山駅~てんぐのこみち~道了尊~奥ノ院~ハイキングコース~道了尊(奥ノ院への354段の階段を登りハイキングコースを歩きます)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・読者の皆様から広く原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>  
松本 保 (Eメールアドレス変更)

Mail: [matsutamori@jcom.zaq.ne.jp](mailto:matsutamori@jcom.zaq.ne.jp)  
Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり  
Mail: [s\\_akasaki-k\\_instructor@live.jp](mailto:s_akasaki-k_instructor@live.jp)  
Tel: 090-6150-6173

<メール・手書き原稿送り先>  
【本誌】松本 保 (Eメールアドレス変更)  
〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17  
Fax: 045-301-9401  
電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: [matsutamori@jcom.zaq.ne.jp](mailto:matsutamori@jcom.zaq.ne.jp)

【別冊】水口 俊則  
〒250-0871 小田原市下堀 123  
Tel/Fax: 0465-42-7240  
Mail: [minagold109@kjd.biglobe.ne.jp](mailto:minagold109@kjd.biglobe.ne.jp)

【別冊はCCも】福島 正治 (新事務局長)  
〒214-0006  
川崎市多摩区菅仙谷 3-1-1-204  
Tel/Fax: 044-944-9423  
Mail: [fukky52000@yahoo.co.jp](mailto:fukky52000@yahoo.co.jp)  
原稿は随時受け付けています。

森のなかまは過去号もご覧になれます。  
(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>  
(HP担当: 井出恒夫)

編集後記

★自宅の池で冬越ししたヤゴが羽化しました。感動をありがとう、2億年前からの大先輩へ。(ω・ノ)

(赤崎)

★セミは七年間も土の中でじっとその時を待っていて地上に出てきます。同じように山百合も最初の花が咲くまでに7年ほどかかるのだそうですね。動植物はなんと我慢強いことでしょうか。見習いたいものです。

(小川)

★今年も炭焼き窯周辺の榎に、玉虫がたくさん飛んできた。ゆっくり飛ぶので簡単に捕まってしまう。余りに色鮮やかな為、鳥が警戒して食わないからだとか。

(徳岡)

★「エアコンの入れる/入れない、温度設定上げる/下げる、で揉めている毎日です。

(水口)

★各地での花火大会。各地の火山も活発。やどりきや県立21の森にも昔の富士山の火山灰を見られる場所があります。大涌谷の活動はおとなしくなっています。

(松本)

◇ 年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。郵便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会宛までご寄附2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 松本 保  
広報部: 水口俊則 徳岡達郎  
大塚晴子 赤崎さほり  
小池 哉 小川和恵 藪田栄哉  
支援 伊藤恭造

まつだ観光まつり・あしがら花火大会 8月22日(土)



緑の募金箱が置いてある飲食処

【こまち】に寄ってみよう!

連絡先: 松田町観光協会 電話: 0465-85-3130  
<http://www1a.biglobe.ne.jp/matsuda-kanko> (松田町観光協会)